



先月の山行

- ☆ 10月 6日(日) 大御影山
- ☆ 27日(日) 倉谷山

11月の予定

- ☆ 10日(日) 一乗城山～白樺～一乗滝
- ★ 14日(木) 例会
- ☆ 24日(日) 大谷山～(マキノから)

CL

12月の予定

- ☆ 8日(日)

CL

- ★ 12日(木) 忘年会 味見屋

- ☆ 22日(日)

CL

- 1月2日(木)

CL 去年は鬼が岳

- 9日(木) 例会

冬季は積雪を考慮して決定します。

<https://asihiking2.jimdo.com/山行計画-1>

を検索して下さい。

山行計画書を提出して下さい

クラブ山行の場合はリーダーが、個人山行の場合はそれぞれで山行前日迄に宮本会長まで。

[山行報告]

大御影山

日 時 2019年10月6日



久しぶりの会の山行です。今日は大御影山です。コースは美浜からではなく、滋賀のビラテスト今津から大御影山を登り、帰りは滝谷山に向かい処女湖に下りビラテスト今津に戻るコースです。帰り滝谷山に行くことが最悪の結果になるとは誰も知るよしもなかった。そのことは出足からつまずいていた。このつまずきが将来を暗示していたのかも？ビラテスト今津に着く。料金場には誰もいないのでそのまま通過する。登山道が分からない。案内板にも書いてない。YAMAP を立ち上げ確認する。登山道の方向に車を進める。キャンプ場です。大勢の人がキャンプをしている。キャンプ場の中をグルグル回るが登山道が見当たらない。施設の駐車場に戻る。登山者がいた。登山者に道を聞く。登山道はわかったが、施設の駐車場に停めることになった。『1名300円だった！』支払に行った清家さんが怒って帰ってきた。何と1名300円の名目環境整備費の駐車代がかかった。支度を整え出発です。道路を歩き、T差路の右側に登山届の箱が置かれている。林道を歩く。左側に大御影山の標柱があった。なだらかな登山道を進む。高低差をほとんど感じない。途中崖の下にキノ

コを発見。即、伴藤と津田さんが下りていく。宮本会長も参戦するが、下りていく途中滑ってしまう。会長の採ったキノコは毒キノコかもと心配しスマホで検索するが良くわからない。その後キノコはどうなったのでしょうか？そしてやがて滝谷山との分岐に着く。ここで休憩です。YAMAPでは滝谷山への登山道が表示されていない。道が有るかどうかが確かめて見る。登山道はあった。帰りは滝谷山に向かうことにする。休憩を終え、大御影山に向かう。途中展望台があったが、皆通り過ぎてしまった。最後から2番目に歩いていた私が、右側に道があるので、そちらの方向に進んで見た。『素晴らしい！絶景です。』と、声を出すと最後を歩いていた藤井さんが大声を出して皆を戻した。ここが展望台だった。大御影山の頂上よりこの眺望の方が遥かに良い。更に頂上を目指す。しかし歩いても、歩いても中々頂上に着かない。頂上までの距離が長い。ようやく頂上に着く。ここで昼食。頂上からの展望は大谷山から赤坂山、木の間から三十三間山と美浜の海岸線が見える。武奈ヶ岳は雲の中だった。昼食を終え、下山開始する。登山道は所々苔むした岩の道のため慎重に下る。滝谷山分岐に着く。いよいよYAMAPに表示されていない登山道に行く。テープを頼りに進んで行く。道が良く分からない。皆でテープを探す。まるでオリエンテーリングをやっているようだ。清家さんが一番に探し当てるので、先頭で進んでいく。小さなアップダウンを繰り返しながら滝谷山に到着する。次に行く方向にテープが見える。その方向に進んで行く。やがてテープが無くなり、枕木のあがる階段になった。ところが下って行くが、突然階段がなくなった。周りはすべてヤブに覆われていた。下の方に道らしき道が見えるので、急坂を私、伴藤さん、大越さんが見に行くが道はない。会長から戻る指示が出たので、急坂を登っていく。時間も14時を回っていたので急いで戻る。来たときは分からなかったが、分岐があった。その分岐をよく見ると、私達が進んだ道が通行止めらしき表示跡があった。その分岐は落合分岐だった。滝谷山を目指さず、滝谷山に向かって左側に下りて行く。もう少しで林道に着く時点で、高井さんが『どうも道が違っている』と言う。YAMAPを見ると山の反対側に下りていることがわかった。下りてしまった以上林道に行くしか無い。更に最悪なことに。急坂をおりたので、刀裨さんは膝が痛い、藤井さんが足の裏が痛いのでかなり遅れてきた。皆が揃うまで林道で待つ。揃ったので林道を進む。約1時間以上の林道歩きです。それも登りの林道です。大越さん、伴藤さん、私が先に進む。途中私達が迷った天狗岩があった。断崖絶壁です。あのまま進んでいたら間違いなく墜落事故だった。戻ってよかった。そして長い林道を歩き、駐

車場に着く。林道は通行止めと登る時に看板が立っていたが通行止めはなかった。車に乗って後続の人たちを迎えに行く。すでに16時30分を回っていた。『行きはヨイヨイ、帰りは怖い』を地で行ってしまいました。もっと良く調べて行くべきでした。皆さんすいませんでした。お詫び申し上げます。

「編集後記」

日本勤労者山岳連盟発行「登山時報」では、労山会員の皆さんからの投稿写真を募集しています。

登山時報投稿写真係 <mailto:tozanjiho@jwaf.jp>